

看護学研究科 2年次 シラバス

開設科目名	保健医療福祉政策論	科目コード	MNSB601	開設期	2年前期
単位数(履修区分)	2単位(選択)	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	森山幹夫	担当者	森山幹夫、眞崎直子		
授業の概要(授業の目的)					
<p>看護が活躍する保健、医療、福祉の各政策において、基本原理及び構成要素である人材、施設・設備、費用の状況を把握する。その上で、保健、医療、介護、福祉、年金、労働施策など諸制度が何故でき、どのように運用され、効果はどうか、過去の制度の発達や変遷はどうかを考察し、看護の視点から利用者主役の観点から政策をより良くするため、将来への改革策は何かまでを論ずる。自分と看護が能力を発揮し、地域に住む人々に応じた制度を適用する手法を考察する。毎回の講義において制度の存在意義や限界、問題点などを問いながら議論を深める。単なる知識の吸収ではなく、思考方法を身につける場である。</p>					
学修の到達目標				ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連	
1) 保健医療福祉政策の基本である人間の尊厳と国民福祉の向上との2つの原理を基軸に置きながら、看護が輝く政策を実現するための法律や制度、システムの根本を理解し議論することができる。				3 看護実践の追求	
2) ニーズが拡大している慢性病を有する者に適用される医療・介護・福祉の制度や体制について、コロナ禍における在宅医療や医療アウトカムなどの方向を考察し革新的発展方を論ずることができる。				4 看護の質向上への貢献	
3) 実際に患者や利用者に適する制度やシステムについて考察し提案することができる。				8 専門職業人としての発展	
4) 保健医療福祉に関するシステムや改革の動きを患者や家族に説明し、選択肢を提示できる。					
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	保健医療福祉の基本理念と少子高齢人口減少社会	講義	森山	各制度の基本的仕組みを資料・教科書で把握	4時間
2	保健医療福祉の分野ごとの制度と看護との関係	講義	森山	各制度と看護師の関係を教科書で理解	4時間
3	費用負担、自己負担、税と保険料の役割分担の原理	講義	森山	構成要素である費用を看護との関係で考察	4時間
4	人材育成、各種専門職種との共通原理	講義	眞崎	講義内容の復習	4時間
5	医療制度の各種資源配分方策 慢性病を持つ者に配分される資源とその方策	講義	眞崎	講義内容の復習	4時間
6	慢性病者に適用できる保健医療福祉の諸政策	講義	眞崎	講義内容の復習	4時間
7	医療保険始め社会保険の諸原理と応用	講義	森山	医療保険の概要と保険原理を同様に確認	4時間
8	年金保険と所得保障の全体像	講義	森山	所得保障の全体像を厚生労働省資料で把握	4時間
9	介護保険と慢性病者、高齢者施策	講義	森山	高齢者諸施策を自治体資料で理解	4時間
10	保健医療福祉施策と財政、税との関係	講義	森山	日本の財政の現状と将来を財務省資料で理解	4時間
11	慢性病のある人が関わるデータヘルス計画等予防制度 や体制の革新方策	講義	眞崎	講義内容の復習	4時間
12	医療や介護の諸施設運営の実際と看護の役割	講義	森山	施設運営の在り方を自分の施設の現状で確認	4時間
13	利用者の負担の考え方と保健医療施策との関係	講義	森山	診療報酬制度の方向と政策誘導効果を考察	4時間
14	リスク分散・マネジメントと看護の本質との関係	講義	森山	看護の目的はリスクとの戦いであり先例から分析	4時間
15	保健医療福祉と看護の将来展望	講義	森山	看護師が保健医療福祉でどう活躍するか考察	4時間
成績評価方法・基準	① 定期試験(期末レポート) 50% ② 授業内レポート 40% ③ 授業態度や参加度 10%				
課題に対するフィードバック	<p>レポートについては、以下のようにフィードバックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中に開設しながら、または後日、事務局を通じて返却</li> <li>・課題の出題意図の説明を講義中に行う。場合によっては掲示等で行う。</li> </ul>				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座「看護関係法令」医学書院 2023年版</li> <li>・森山は教材として別に本学用に作成した資料を配布する。</li> </ul>				
参考書・参考文献	「初めての社会保障」有斐閣 2023年版				
オフィス学習相談メッセージ	<p>森山幹夫は非常勤であるので moriyamamikio@yahoo.co.jp にメールされたい。</p> <p>制度や法律の解説ではなく、根本にある普遍的事実を学問にまで高めたい。患者や利用者のために何をすればよいかを一緒に考えていく。現実の問題について、院生から事例を持ってきてもらいともに考えていく手法も採り、毎回、看護が直面する課題について議論していきたい。コロナ禍において看護は国民から期待されている。私は看護を応援します。健康に留意されたい。</p>				

開設科目名	研究論文（英文）クリティカル・ライティング	科目コード	MNSB602	開設期	2年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	Eric FORTIN	担当者	Eric FORTIN、宮林郁子		
授業の概要（授業の目的）					
<p>コースの前半は論文構成、内容クリティーク、文脈理解を目的とした英文原著抄読を行い、後半では、APA フォーマットを使い、自己の研究課題に基づいて英語論文抄録を書き、査読のポイントに沿って、ピアレビューを行うことを目的とするコースである。</p> <p>科学論文のクリティークが出来、自己の研究課題に基づく英文抄録の作成を目標とする。</p>					
学修の到達目標				ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連	
1. Understanding of APA format for writing abstracts in English.				4 看護の質向上への貢献 7 国際性・学際性の探求 8 専門職業人としての発展	
2. Understanding of English punctuation and word usage.					
3. Understanding of how to write abstracts in English.					
4. Understanding of how to critique abstracts.					
授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	論文構成、クリティーク方法の理解①	講義	Fortin 宮林郁子	英語ジャーナルの abstract を読んで、主語・動詞・述語を確認し、同じような書き方をまねして書くこと。	4時間
2	論文構成、クリティーク方法の理解②	講義		Review abstract headings	4時間
3	英文原著論文抄読①（Background）APA format①	講義		Complete Background	4時間
4	英文原著論文抄読②（Purpose）, APA format②	講義		Complete Purpose	4時間
5	英文原著論文抄読③（Method）, APA format③	講義		Complete Method	4時間
6	英文原著論文抄読④（Results）, APA format④	講義		Complete Results	4時間
7	英文原著論文抄読⑤（Conclusion）, APA format⑤	講義		Complete Conclusion	4時間
8	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成① -Critique of abstract Backgrounds	講義		Prepare abstract critique	4時間
9	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成② -Critique of abstract Purposes	講義		Review PowerPoint format	4時間
10	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成③ -Critique of abstract Methods	講義		Review how to make charts/graphs	4時間
11	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成④ -Critique of abstract Results	講義		Write first draft of abstract	4時間
12	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成⑤ -Critique of abstract Conclusions	講義		Write final draft of abstract	4時間
13	ピアレビュー① Practice -Making & writing headings for charts & graphs	講義		Prepare for presentation	4時間
14	ピアレビュー② Practice -Pronunciation practice for oral presentations	講義		Prepare for presentation	4時間
15	ピアレビュー③ Final presentations	講義		Final pre-presentation check	4時間
成績評価方法・基準	プレゼンテーション: 50% (Fortin) 英語論文抄録: 50% (Fortin)				
課題に対するフィードバック	・課題の批評・アドバイス ・プレゼンテーションの批評・アドバイス				
教科書	教員のプリント				
参考書・参考文献	特になし				
オフィスワ、学習相談 メッセージ その他	Eric Fortin（6号館 2F L621 研究室）、オフィスワ:水曜日 16:30~17:30				

開設科目名	療養支援慢性看護学演習ⅡB	科目コード	MNSA601	開設期	2年前期
単位数(履修区分)	2単位(選択)	時間数	60時間	授業区分	演習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、小浜さつき、酒井輝文、今村豊、福田賢治、福島由尚、田代英樹、武岡宏明、中野輝明、東治道、佐藤雄一、坂西雄太		
授業の概要(授業の目的)					
病態生理学、フィジカルアセスメントの知識を活用し、疾患別事例と慢性疾患の一般的な症状のアセスメントを行い、必要な処置と高度実践看護として望ましい対応について学ぶ。					
学修の到達目標			ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連		
1. 「臨床病態生理学」、「ライフスパンフィジカルアセスメント」で学んだ知識・技術を基盤とし、ペーパー患者や模擬患者を通して症状別マネジメントのためのアセスメント技術を習得する。			3. 看護実践の追及、4. 看護の質向上への貢献 8. 専門職業人としての発展		
2. 医師や専門看護師のクリニカルラウンドに同行し、患者に必要な検査、薬物療法および処置を学び高度実践看護としての望ましい対応を習得する。					
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	ケーススタディ①胸痛	演習	田代	胸痛の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
2	ケーススタディ②呼吸困難	演習	武岡	呼吸困難の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
3	ケーススタディ③腹痛	演習	酒井	腹痛の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
4	ケーススタディ④頭痛	演習	福島	頭痛の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
5	ケーススタディ⑤発熱	演習	中野	発熱の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
6	ケーススタディ⑥意識障害	演習	福田	意識障害の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
7	ケーススタディ⑦めまい	演習	福田	めまいの定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
8	ケーススタディ⑧筋力低下	演習	中野	筋力低下の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
9	ケーススタディ⑨咳嗽	演習	武岡	咳嗽の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
10	ケーススタディ⑩悪心、嘔吐、下痢	演習	酒井	悪心、嘔吐、下痢の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
11	ケーススタディ⑪感覚低下、しびれ	演習	佐藤	感覚低下、しびれの定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
12	ケーススタディ⑫浮腫	演習	東	浮腫の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
13	ケーススタディ⑬全身倦怠感	演習	酒井	全身倦怠感の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
14	ケーススタディ⑭貧血	演習	今村	貧血の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
15	ケーススタディ⑮動悸・脈拍異常	演習	田代	動悸・脈拍異常の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	1時間
16	ケーススタディ⑯出血傾向	演習	今村	出血傾向の定義・症候から原因疾患、診断の進め方等について予習し講義に臨む。	1時間
17	ケーススタディ⑰脱水	演習	東	脱水の定義・症候から原因疾患、診断の進め方等について予習し講義に臨む。	1時間
18	クリニカルラウンド(循環器)	演習	田代	循環器内科外来、病棟での医師のクリニカルラウンドに同行し、患者に必要な検査、薬物療法および処置を学び高度実践看護としての望ましい対応を習得する。レポートを作成する。	3時間
19					
20	クリニカルラウンド(消化器)	演習	酒井	消化器内科エコー検査室での医師のエコー検査と読影・患者への説明場面に行き、患者に必要な検査、薬物療法および処置を学び高度実践看護としての望ましい対応を習得する。レポートを作成する。	3時間
21			小浜		
22	クリニカルラウンド(脳神経)	演習	福田	脳神経内科外来、病棟での多職種によるクリニカルラウンド、ケースカンファレンスに同行し、患者に必要な検査、薬物療法および処置を学び高度実践看護としての望ましい対応を習得する。レポートを作成する。	3時間
23			日高		
24	クリニカルラウンド(内分泌代謝)	演習	佐藤	糖尿病外来、病棟での多職種によるクリニカルラウンド、ケースカンファレンスに同行し、患者に必要な検査、薬物療法および処置を学び高度実践看護としての望ましい対応を習得する。レポートを作成する。	3時間
25					
26	クリニカルラウンド(腎)	演習	東	腎臓病外来、病棟での多職種によるクリニカルラウンド、ケースカンファレンスに同行し、患者に必要な検査、薬物療法および処置を学び高度実践看護としての望ましい対応を習得する。レポートを作成する。	3時間
27					

28 29	クリニカルラウンド（膠原病）	演習	中野	膠原病外来、病棟での多職種によるクリニカルラウンド、ケースカンファレンスに同行し、患者に必要な検査、薬物療法および処置を学び高度実践看護としての望ましい対応を習得する。レポートを作成する。	
30	ケーススタディ（統合）	演習	坂西 日高	現在までに学修した症状別マネジメントの知識を基に、複数の慢性疾患を有する患者に必要な検査、薬物療法および処置について検討し、高度実践看護としての望ましい対応を検討する。レポートを作成する。	1時間
成績評価方法・基準		レポート（70%）、授業への参加状況（30%）（評価者：科目責任者）			
課題に対するフィードバック		提出されたレポートは、後日返却します。			
教科書		ライフスパンフィジカルアセスメント、臨床病態生理学、臨床薬理学で使用したテキスト			
参考書・参考文献		特になし			
オフィスアワー 学習相談 メッセージ その他		日高艶子：7号館3階、731研究室、オフィスアワー：金曜日 16：30～17：30 本科目は、各担当者の研究成果を元に講義を行います。			

開設科目名	療養支援慢性看護学実習Ⅱ	科目コード	MNSA602	開設期	2年通年
単位数(履修区分)	4単位(選択)	時間数	180時間	授業区分	実習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、崎田マユミ、小浜さつき (実習施設指導者:東治道、福田賢治、福鳥由尚、田代英樹、佐藤雄一、吉村綾子、安永恵、中島寿子、佐藤友紀、濱砂麻美、加藤由香、金山萬紀子、中村真紀、古賀恭子、三宅秀敏、石原純一)		
授業の概要(授業の目的)					
慢性病を病む人々と家族に対して、専門看護師として高度な看護実践を提供できる能力を養うために、慢性病の発症・悪化予防と長期管理に必要とされる基本的な医学的評価や判断に基づく薬物療法、医療処置管理について実践を通して学ぶ。 また、中範囲理論を適用して看護実践を分析するとともに、慢性病のある人への看護実践の課題について探求する。					
学修の到達目標				ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連	
1. 慢性病を病む人々と家族に対して、専門看護師として高度な看護実践を提供できる能力を養う。				3. 看護実践の追求、4. 看護の質向上への貢献、6. 看護理論の検証	
2. 基本的な医学的評価や判断に基づく薬物療法、医療処置管理について理解する。					
3. 中範囲理論を適用して看護実践を分析するとともに、慢性病のある人への看護実践の課題について探求できる。					
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	実習Ⅱは、実習Ⅰを終了した学生に対して2年次前期～2年次後期に実施する。	実習	各指導 教員		
	対象とする患者は、慢性病の中でも、呼吸器疾患、脳血管障害、神経疾患、循環器疾患、消化器疾患、糖尿病、腎・泌尿器疾患を持つものとする。				
	学生は、各自の関心領域(Subspecialty)を中心に、授業目標に提示されている専門看護師に必要とされる基本的な医学的評価や判断に基づく薬物療法、医療処置管理について学ぶための実習計画書を、実習要領に基づき作成し提出する。				
	患者の薬物療法や医療処置管理についてレポートを提出し、医師、薬剤師、専門看護師、看護師長、担当教員とカンファレンスを持ち検討する。 ・患者に適した薬剤投与方法、薬理作用・副作用と管理、アドヒアランス ・患者の状態と処置内容、医療処置の効果(身体的効果、生活上の効果) ・検査や診察と医療処置の実際 ・長期の薬物療法と医療処置の特徴と問題点 ・中範囲理論を適用した看護実践の分析と課題の探求 詳細は、実習要項参照				
	実習場所: 聖マリア病院(病棟、外来、患者・家族サポートセンター)、聖マリアヘルスケアセンター、誠愛リハビリテーション病院、九州労災病院 他				
成績評価方法・基準	レポート70%、実習への取り組み状況(カンファレンス参加度、臨床指導者評価など)30%				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは後日返却します。				
教科書	・Lynn S.Bickley 著、福井次矢、井部俊子監修: Bates' Guide to Physical Examination and History Taking.				
参考書・参考文献	特になし				
オフィス 学習相談 メッセージ その他	日高艶子: 7号館3階731研究室 オフィスアワー: 金曜日16:30-17:30				

開設科目名	療養支援慢性看護学実習Ⅲ	科目コード	MNSA603	開設期	2年通年
単位数(履修区分)	3単位(選択)	時間数	135時間	授業区分	実習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、崎田マユミ、小浜さつき (実習施設指導者:東治道、田代英樹、佐藤雄一、福田賢治、福島由尚、井林雪郎、吉村綾子、中島寿子、安永恵、佐藤友紀、濱砂麻美、加藤由香、金山萬紀子、中村真紀、古賀恭子、三宅秀敏、石原純一)		
授業の概要(授業の目的)					
慢性病のある人や家族に対する治療・療養環境の調整の実際を含む包括的アセスメントを実施し、長期療養のプロセスに専門看護師として高度な看護実践を提供できる能力について実践を通して学ぶ。					
学修の到達目標			ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連		
1. 慢性病のある人や家族に対する治療・療養環境の調整の実際を含む包括的アセスメントを実施できる。			3. 看護実践の探求、4. 看護の質向上への貢献、 8. 専門職業人としての発展		
2. 慢性病のある人や家族の長期療養のプロセスにおいて専門看護師として高度な看護実践を提供できる。					
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	<p>1. 実習Ⅲは、実習Ⅰ、実習Ⅱが終了した学生に対して2年次前期～後期に実施する。2. 対象とする患者は、慢性疾患の中でも糖尿病、呼吸器疾患、脳血管障害、神経疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患をもつ者とする。</p> <p>2. 学生は、各自の関心領域(subspecialty)を中心に、授業目標に提示されている患者や家族の治療・療養環境の調整の実際を含む包括的アセスメントを学び、実践するための実習計画書を実習要領に基づき作成し提出する。</p> <p>3. 患者と家族のケア、組織のアセスメント、高度な看護実践については、レポートを提出しケアチームメンバー、専門看護師、看護師長、医師、担当教員とカンファレンスを持ち検討する。</p> <p>4. 実習場所： 聖マリア病院(病棟、外来、患者・家族サポートセンターなど)、聖マリアヘルスケアセンター、誠愛リハビリテーション病院(病棟、外来、福祉部)、九州労災病院、連携先の診療所、かかりつけ医、訪問看護ステーション 他</p>	実習	各指導 教員	毎年発行される「日本看護協会 WEB の CNS 審査規程」に目を通しておくこと	
成績評価方法・基準	(1)レポート70%、(2)実習への取り組み状況(カンファレンス参加度、臨床指導者評価など)30%				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは後日返却します。				
教科書	特になし				
参考書・参考文献	特になし				
ピアラー 学習相談 メッセージ その他	日高艶子(7号館3階731研究室 オフィスアワー:金曜日16:30-17:30)				

開設科目名	MCH(周産期・母子)看護学特論Ⅲ	科目コード	MNSA604	開設期	2年前期
単位数(履修区分)	2単位(選択)	時間数	60時間	授業区分	講義・演習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、浅野美智留、野口ゆかり、柳本朋子、川上桂子、堀内成子、有森直子、峰原奈緒子		
授業の概要(授業の目的)					
<p>特定の周産期看護ケアを必要とする妊産褥婦と胎児・新生児および家族に対して、対象のニーズに即したケアの立案と実践について、対象のQOLを高める実践の評価・検討を行い、家族の安寧をもたらす質の高い高度看護実践のあり方、ケアについて探究する。</p> <p>現代の女性と家族を取り巻く周産期・母子のケアシステムの現状・課題とその対応(周産期医療ネットワークの構築・課題とそれに対する社会システムの構築・政策立案等)について、高度看護実践者の立場から理解・考察を深めることができる。</p>					
学修の到達目標				ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連	
1. 建学の精神とリプロダクティブ・ヘルス&ライツの視点から、高度看護実践者の役割としての機能、責務を理解し、自らの専門職者としてのあり方を考察できる。また特に、リプロダクティブ・ヘルスにおける倫理的課題と、そこで求められる高度看護実践者の使命、役割と機能、責務について考察できる。				◎3) 看護実践の追求、4) 高度実践看護師 ◎5) 看護理論の活用、6) 看護理論の検証 ◎8) 看護学の検証と発展	
2. 特定のケアニーズを有する周産期事例について、エビデンスを活用しながら、事例へのケアの立案と実践について、対象のQOLを高めるという視点から評価・検討を行うことができる。					
3. 現代の女性と家族を取り巻く、周産期・母子のケアシステムの現状と課題、また当該領域のケアに関わる倫理的課題について理解・考察を深めることができる。					
4. 家族の安寧をもたらす質の高い高度看護実践のあり方、ケアについて考察できる。					
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等) ※遠隔時の授業方法: zoomによる同時双方向型					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	科目ガイダンス リプロダクティブ・ヘルスにおける高度看護実践者の使命、役割と機能、責務	講義 (面接)	桃井	予習: 事前に各自でリソース探索と課題に 取り組む	4時間
2					4時間
3	妊孕性に関するケアニーズを有する女性と家族へのケア	講義・討議 (面接)	桃井	復習: 授業内容を受けて、更にリソースの 探索を進める。また、考察を深めると ともに、ケアについて深奥な探求を 進める。	4時間
4					4時間
5	周産期における喪失(ベリネイタル・ロス)に関するケアニーズを有する親・家族へのケア	講義・討議 (面接)	桃井		4時間
6					4時間
7	遺伝に関するケアニーズを有する女性と家族へのケア 遺伝看護における最新知識と高度看護実践について 遺伝カウンセリングについて	講義・討議 (面接)	有森 桃井 野口		4時間
8					4時間
9					4時間
10	身体的リスクを有する妊産褥婦と家族へのケア	講義・討議 (面接)	野口		4時間
11					4時間
12	心理的・社会的リスクのある妊産褥婦と家族へのケア	講義・討議 (遠隔)	峰原		4時間
13					4時間
14	育児に関するケアニーズを有する親と家族へのケア① プライマル・ヘルスに基づくケアの原理に焦点を充てる	講義・討議 (面接)	浅野		4時間
15					4時間
16	育児に関するケアニーズを有する親と家族へのケア② プライマル・ヘルスに基づくケアニーズを考える	講義・討議 (面接)	浅野		4時間
17					4時間
18	周産期における Domestic Violence に関するケアニーズを有する 家族へのケア	講義・討議 (面接)	川上		4時間
19					4時間
20	Child abuse リスクのある家族へのケア	講義・討議 (面接)	野口		4時間
21					4時間
22	在日外国人の妊産褥婦と家族へのケア	講義・討議 (面接)	浅野		4時間
23					4時間
24	女性と家族を取り巻く社会の現状と課題 1) 周産期ケアシステムの現状と課題 ① 周産期医療ネットワークの構築と課題	講義・討議 (面接)	堀内		4時間
25	② 周産期における質と安全の保証	講義・討議 (面接)	堀内		4時間



26	2) 周産期ケアにおける倫理的課題 ・生殖医療・新生児医療における倫理的課題 ・倫理的課題に対する高度実践看護者のあり方について	講義 討議 (面接)	桃井 野口 浅野 柳本 川上	予習： 事前に提示されたテーマに沿って レポートを作成する。	4 時間
27				レポートを作成する。	4 時間
28				復習： 討議を通して、自らの考察を深め、 ケアについて深奥な探求を進める。	4 時間
29				討議を通して、自らの考察を深め、 ケアについて深奥な探求を進める。	4 時間
30	建学の精神と高度看護実践者の役割と機能、責務（総括）	講義・討議 (面接)	桃井	予習： 事前に提示されたテーマに沿って レポートを作成する。  復習： 授業の目的・目標に照らし、学修 内容の考察を深め、統合する。	4 時間
成績評価方法・基準		授業への取り組み状況、レポート（100%） 評価者：桃井、浅野、野口、柳本、川上 *レポートのテーマは各評価者より提示します。			
課題に対するフィードバック		フィードバックは講義内、又は個別に時間を設けて行います。			
教科書		必要に応じて、適宜提示いたします。			
参考書・参考文献		必要に応じて、適宜提示いたします。			
オフィスアワー・学習相談 メッセージ・その他		* オフィスアワー：桃井雅子 水曜日 16:30~18:00 * 学習相談：随時受け付けます。 * メッセージ：これまでの臨床経験を振り返り、特定の周産期看護ケアを必要とする妊産褥婦と胎児・新生児および家族に対して より善いとは何かを考察を深め、質の高い高度実践看護のあり方について探究する時を持ってくださることを願います。 * その他：女性の意思決定支援に関する授業（第3・4、26~29回）においては、「若年女性の妊孕性に関する意思決定支援 に向けた看護基礎教育プログラムの開発」の研究成果を、一部、参照して授業を展開します。			

開設科目名	PIC（周産期集中ケア）特論Ⅲ	科目コード	MNSA605	開設期	2年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	演習
責任者	浅野美智留	担当者	浅野美智留、桃井雅子、野口ゆかり、柳本朋子、川上桂子、 下村卓也、前野泰樹		

授業の概要（授業の目的）

母子・家族への継続支援と地域における子育て支援システム、周産期医療の提供体制（院内助産システム、周産期における医療安全を含む）、周産期における看護・助産業務管理、社会参画の方法、周産期医療ネットワークの構築、政策立案、周産期看護における上級実践看護師としての専門看護師(CNS)の役割と実践活動、看護職の自律と裁量権の拡大等、周産期医療における今日的な課題について、臨床における実例をもとに学び、探究する。

学修の到達目標

1. 母子・家族への継続支援と地域における子育て支援システム、周産期医療の提供体制について理解できる。
2. 周産期における看護・助産業務管理、社会参画の方法、周産期医療ネットワークの構築、政策立案について理解できる。
3. 周産期看護における上級実践看護師としての専門看護師の役割と実践活動、看護職の自律と裁量権の拡大について理解できる。
4. 周産期医療における今日的な課題について、専門看護師としての役割と具体的な実践について考察することができる。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）との関連

- ◎ 3) 看護実践の追求
- ◎ 4) 高度実践看護師
- 5) 看護理論の活用
- 6) 看護理論の検証
- 8) 看護学の検証と発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	周産期医療提供体制における課題（総論）	講義・討議 〈対面〉	前野	予習： 事前に提示された文献等で授業内容に該当する箇所を目を通し、これまでの自身の経験と照らし合わせ、授業のテーマに関する自己の見解をもって授業に参加してください。  復習： ・授業で配布された文献・資料等を見直すと共に、自らの関心に沿ってリソース探索を行い、さらに理解を深めてください。 ・各回の演習を受けて、専門看護として取り組むべき課題と役割、また具体的な実践について考察してください。	到達目標に向けて自身が必要とする時間数を判断し、確保して下さい。
2	周産期医療における「ライリーケア」の現状と課題	講義・討議 〈対面〉	桃井、浅野、野口、柳本、川上		
3	看護職の自律と裁量権の拡大	講義・討議 〈対面〉	浅野、桃井、野口、柳本、川上		
4	助産師の業務拡大と自律	講義・討議 〈対面〉	浅野、桃井、野口、柳本、川上		
5	周産期における専門看護師の役割と実践	講義・討議 〈対面〉	桃井、浅野、野口、柳本、川上		
6	周産期における専門看護師の役割 *課題学習	講義・発表・討議 〈対面〉	桃井、浅野、野口、柳本、川上		
7	母子・家族への継続支援と地域における子育て支援システム	講義・討議 〈対面〉	浅野、桃井、野口、柳本、川上		
8	看護政策の課題と看護政策立案	講義・討議 〈対面〉	野口、桃井、浅野、柳本、川上		
9	看護職の社会参画	講義・討議 〈対面〉	桃井、浅野、野口、柳本、川上		
10	周産期医療における質と安全の保障① 周産期における医療安全とリスクマネジメント	講義・討議 〈対面〉	柳本、桃井、浅野、野口、川上		
11	周産期医療における質と安全の保障② 周産期医療における質の保証と看護 周産期の上級実践看護に期待されるもの	講義・発表・討議 〈対面〉	柳本、桃井、浅野、野口、川上		
12	周産期における看護・助産業務管理 周産期医療提供体制における助産管理と課題	講義・討議 〈対面〉	川上、桃井、浅野、野口、柳本		
13	周産期医療ネットワークの構築と課題	講義・討議 〈対面〉	下村		
14	周産期医療と災害看護	講義・討議 〈対面〉	川上、桃井、浅野、野口、柳本		
15	まとめ	講義・発表 討議 〈対面〉	浅野、桃井、野口、柳本、川上		

成績評価方法・基準	<p>① 演習への取り組み状況（40%）：事前の準備、演習への参加状況（評価者 浅野、桃井、野口、柳本、川上）</p> <p>② レポート（60%）＊レポートのテーマは、第6回の授業中に提示いたします。（浅野）</p>
課題に対するフィードバック	＊フィードバックはレポート返却時に行います。
教科書、	必要に応じて、適宜提示いたします。
参考書・参考文献	特になし
オフィスアワー・学習相談 メッセージ	<p>浅野美智留 ＊オフィスアワー：水曜日 12:10～13:10 研究室 723 ＊学習相談：随時受け付けます。</p> <p>＊ICTの活用：講義中にメディアリテラシーとして情報検索を入れます。参考になるネットサイトを紹介しますので、復習に活用してください。</p> <p>＊医療専門職種と連携して周産期医療を展開する時も、助産師の役割は適応力と自然の摂理を生かすことであることを共に考えたいと思います。</p> <p>＊その他 「児の母乳吸啜に基づく乳房ケア」「アントロポゾフィー看護」に関する研究成果を生かします。特に、臨床家と協議して、現場に生かせる結果を得たものを還元したいと思います。</p>

開設科目名	MCH（周産期・母子） 看護学特論実習Ⅱ	科目コード	MNSA606	開設期	2年通年
単位数（履修区分）	5単位（選択）	時間数	225時間	授業区分	実習
責任者	柳本 朋子	担当者	柳本朋子、浅野美智留、野口ゆかり、川上桂子 （実習施設の教育担当者：下村卓也、前野泰樹、斉藤由香、伊東貴美代）		
授業の概要（授業の目的）					
<b>【実習 2ndレベル】 CNS 役割実習</b> 周産期に発生する緊急事態への対応、特定の周産期ケアを必要とする妊産褥婦・胎児・新生児および家族への看護、倫理的調整が必要な事例へのケア、看護スタッフへの相談・教育、他職種との連携、調整の役割について、高度看護実践活動を行うことを通して学修する。					
学修の到達目標				ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連	
1. MCH（周産期・母子）看護学領域の専門科目で学習したことを基礎として、周産期にある対象や家族の状況に即した質の高い看護実践活動を行うための周産期看護の専門看護師に必要な高度なアセスメント能力と実践能力を養うことができる。 2. ケアの質の向上を目指し、専門看護師としての役割を果たすために、自律的に活動する能力を自らの中に統合できる。				◎ 1) 全人的ケアの探求 ◎ 2) 倫理原理の修得 ◎ 3) 看護実践の追求 4) 高度実践看護師 5) 看護理論の活用 6) 看護理論の検証 8) 看護学の検証と発展	
授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）※遠隔授業の方法：Teamsによる同時双方向型					
回	実習内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	専門看護師の役割と機能を果たすために、実習Ⅰに引き続き、実習目標が達成できるよう、担当教員、実習指導者と協議しながら自立して実習計画を立案し、自らが実習環境をコーディネートして実習を進める。  (1) 周産期高度集中ケアを必要とするハイリスクケースに対し、高度看護実践を行う。 <母体例> 転送、搬送ケースなど緊急対応の必要な事例、合併症、精神疾患、複雑な心理的問題、複雑な家族問題を有する事例 <新生児例> 転送、搬送ケースなど緊急対応の必要な事例 呼吸・体温・水分・栄養・管理など高度周産期医療・ケアが必要な新生児、複雑な心理的問題、複雑な家族問題を有する事例 その他、早産児、低出生体重児、先天異常 等  (2) 心理・社会的に複雑な問題を抱える妊産褥婦に対し、妊娠・分娩・産褥経過の正常性を維持するための予防的ケアと共に、心理・社会的な側面に対する高度看護実践のスキルを獲得する。 (3) 看護スタッフおよび他部門・他施設、地域と連携し、調整機能を果たす。 (4) 高度看護実践を行いつつ、事例のもつ状況により、倫理調整の機能を果たす。 (5) 実習施設で行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへ参加し、必要に応じて、周産期看護の質の確保・向上に向けての取り組みについて相談・教育機能を果たす。  ※詳細は実習要項参照	実習	柳本 浅野 野口 川上 下村 前野 斉藤 伊東	実習要項を熟読し、実習の目的・目標・内容、留意事項について十分理解した上で、自身の実習計画を立案し、実習施設との調整等、主体的に実習準備を行ってください。	達目標に向け て自身が必要 とする時間数 を判断し、確 保して下さい。
成績評価方法・基準	実践場面の評価：60%、レポート：40%（担当者全員） ＊各自の関心領域を中心に、各期の実習目標に適合した事例を選択して実習する。適宜、実習施設と協働したケース・カンファレンスを行い、終了時には事例発表としてのプレゼンテーションまたは、課題レポートとしてまとめる。				
課題に対するフィードバック	＊フィードバックは実習中（随時）および実習後のレポート返却時に行います。				
教科書	特になし				
参考書・参考文献	特になし				
オフィス・学習相談 メッセージ	柳本 朋子 ＊オフィスアワー：水曜日 16:30～18:00 ＊学習相談：随時受け付けます。 連絡先：2号館1階 L 218 メールアドレス:yanagimoto@stmaryacjp.onmicrosoft.com				

開設科目名	MCH (周産期・母子) 看護学特論実習Ⅲ	科目コード	MNSA607	開設期	2年通年
単位数 (履修区分)	3単位 (選択)	時間数	135時間	授業区分	実習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、浅野美智留、野口ゆかり (実習施設の教育担当者：下村卓也、前野泰樹、斉藤由香、伊東貴美代)		
授業の概要 (授業の目的)					
<p><b>【実習 3rd レベル】 役割開発実習</b></p> <p>専門看護師の使命、役割と機能を果たすために、実習Ⅰ・Ⅱに引き続き、実習目標が達成できるよう、担当教員、実習指導者と協議しながら自律して実習計画を立案し、自らが実習環境をコーディネートして実習を進める。</p> <p>看護実践活動の中から、ケアの変革、新たな周産期医療システム構築につながる方策を探求する。また複雑な問題を有する事例を受け持ち、事例を通して新しいケアの開発や看護実践の改善の試みを行い、研究プロセスに準じた探索的アプローチを実践する。</p>					
学修の到達目標				ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連	
1. 周産期にある母子・家族の状況に即したQOLを高めるための周産期看護専門看護師の実践活動について、評価・検討ができる。				◎1) 全人的ケアの探求 ◎2) 倫理原理の修得 ◎3) 看護実践の追求	
2. 家族の安寧をもたらすケアの探究と社会システムを構築するために、研究手法を用いて探究活動を行うことができる。				4) 高度実践看護師 5) 看護理論の活用、 6) 看護理論の検証 8) 看護学の検証と発展	
授業計画 (授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等) ※遠隔授業の方法：Teamsによる同時双方向型					
回	実習内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	<p>専門看護師の使命、役割と機能を果たすために、実習Ⅰ・Ⅱに引き続き、実習目標が達成できるよう、担当教員、実習指導者と協議しながら自律して実習計画を立案し、自らが実習環境をコーディネートして実習を進める。</p> <p>看護実践活動の中から、ケアの変革、新たな周産期医療システム構築につながる方策を探求する。また複雑な問題を有する事例を受け持ち、事例を通して新しいケアの開発や看護実践の改善の試みを行い、研究プロセスに準じた探索的アプローチを実践してレポートにまとめる。</p> <p>(1) 周産期高度集中ケアを必要とするハイリスクケースに対し、高度看護実践を行う。 母体例：転送・搬送ケースなど緊急対応の必要な事例、合併症・精神疾患・複雑な心理的問題や家族問題を有する事例 新生児例：転送・搬送ケースなど緊急対応の必要な事例 呼吸・体温・水分・栄養・管理など、高度周産期医療・ケアが必要な新生児、複雑な心理的問題や家族問題を有する事例(早産児、低出生体重児、先天異常など)</p> <p>(2) 心理・社会的、精神的に複雑な問題を抱える妊産褥婦に対し、妊娠・分娩・産褥経過の正常性を維持するための予防的ケアと共に、心理・社会的、精神的な側面に対する高度看護実践のスキル(全人的なケアのスキル)を獲得する。</p> <p>(3) 看護スタッフおよび他部門・他施設、地域と連携し、調整機能を果たす。</p> <p>(4) 高度看護実践を行いつつ、事例のもつ状況により、倫理調整の機能を果たす。</p> <p>(5) 実習施設の行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへ参加し、必要に応じて、周産期看護の質の確保・向上に向けての取り組みについて相談・教育機能を果たす。</p> <p>(6) 上記の実践活動を発展させ、高度な看護を実践するCNSの役割として開発していくかを探求し、課題研究にまとめる。</p> <p>※詳細は実習要項参照</p>	実習	桃井 浅野 野口 前野 下村 斉藤 伊東	実習要項を熟読して、実習の目的・目標・内容、留意事項について十分理解した上で、自身の実習計画を立案してください。また、実習施設との調整等を主体的に行い、実習に向けて準備をしてください。	達目標に向けて自身が必要とする時間数を判断し、確保してください。
成績評価方法・基準	実践場面の評価：60%、レポート：40% ※課題研究は別に評価します。				
課題に対するフィードバック	*フィードバックは実習中(随時)および実習後のレポート返却時に行います。				
教科書	特になし				
参考書・参考文献	特になし				
ワイアー・学習相談	桃井雅子 *オフィスアワー：水曜日 16:30~18:00		*学習相談：随時受け付けます。		

開設科目名	リーダーシップとデリゲーション	科目コード	MNSA608	開設期	2年前期
単位数(履修区分)	2単位(選択)	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	近末清美	担当者	近末清美		
授業の概要(授業の目的)					
組織を成立・存続させ、さらに持続的な発展を遂げることを目指すとき、組織のリーダーやリーダーシップが果たす役割は大きい。本授業では、リーダーシップの基本、リーダーシップの理論的背景、リーダーシップを発揮する方法、変革の時代に求められる「リーダーシップ、サーバントリーダーシップなどリーダーシップを多面的に捉えなおすことに加えて、組織やそこに属する個人を動かすためのさまざまな方法を学ぶ。それらの理解を通して、自身のリーダーシップをどのように開発していくのかについて考える。					
学修の到達目標				ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連	
1. リーダーシップの基本的な考え方を理解できる				4 看護の質向上への貢献	
2. リーダーとフォロワーの相互関係を踏まえ、効果的なリーダーシップスタイルについて考えることができる					
3. リーダーシップの発揮に関わる諸要素について、多面的に考えることができる					
4. マネジャーの役割と行動を理解できる					
5. 文献検討を通して自らの研究課題や研究方法を考えることができる					
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)					
回	授業内容	担当者	方法	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	リーダーシップの基本一定義と概念	近末	講義	教科書①を事前に読んでおく	4時間
2	リーダーシップ理論の概観	近末	講義	教科書①を事前に読んでおく	4時間
3					
4	リーダーシップ理論の臨床での活用	近末	講義 討議	リーダーシップ理論を活用し看護管理者への活用について考える	4時間
5	リーダーシップとマネジメントとの関係	近末	講義 討議	管理者としてのマネジメントについて考える	4時間
6	ダイバーシティ・マネジメント	近末	講義 討議	ダイバーシティ・マネジメントを活用したマネジメントについて考える	4時間
7	リーダーシップに関する文献検討(文献レビュー)	近末	討議	リーダーシップに関する研究論文をレビューし、看護管理者としての概念化能力向上に役立てる	4時間
8					4時間
9	リーダーシップに関する文献検討	近末	討議		4時間
10	(管理者として必要なリーダーシップ)				4時間
11	マネジメントに関する文献検討(文献レビュー)	近末	討議	マネジメントに関する研究論文をレビューし、看護管理者としての概念化能力向上に役立てる	4時間
12					4時間
13	リーダーシップとデリゲーション	近末	講義 討議	自身のデリゲーションについて考える	4時間
14	看護管理上の課題解決の検討	近末	討議	看護管理者としての自身の課題を検討	4時間
15			講義		4時間
成績評価方法・基準 課題に対するフィードバック	①クラスワーク・発表 50% ②課題レポート 50% ・課題の模範解答を講義内に、または後日提示する ・講義中、または後日返却する				
教科書(番号があるもの) 参考書・参考文献	① 堀尾志保・館野泰一(2020) これからのリーダーシップ 基本・最新理論から実践事例まで、日本能率協会マネジメントセンター ・金井壽宏(2005)リーダーシップ入門、日経文庫 ・ルパート・ビジネス・レビュー編集部編(2018)リーダーシップの教科書、ダイヤモンド社 ・Robert Kelley(1992) The Power of followership, Doubleday Business ・西之坊穂(2021) 日本の組織におけるフォロワーシップ、晃洋書房 ・リー大シブとフォロワーシップの育て方(2022) ,Nursing Business, 16(6), 485-508, メディカ出版 この他の関連文献は、授業内で適宜紹介する				
オフィスアワー 学習相談 メッセージ その他	近末 清美 オフィスアワー:水曜日 16:30~17:30 学習相談:随時受け付けます				

開設科目名	国際看護学フィールドスタディ	科目コード	MNSA609	開設期	2年前期
単位数(履修区分)	4単位(選択)	時間数	120時間	授業区分	実習
責任者	秦野環	担当者	秦野環		
授業の概要(授業の目的)					
学生が焦点化したグローバル・ヘルスの課題をもつ国、地域あるいは外国のみならず国内において実施されている国際看護協力活動などに参加し、プロジェクトなどの立案、計画、実施、評価までの一連の活動を経験する。					
学修の到達目標			ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連		
1. フィールド対象国の政治・社会・経済・歴史・文化的な背景を説明できる			1 全人的ケアの探求、 ◎ 3 看護実践の追求、 ◎ 7 国際性・学際性の探求、 8 専門職業人としての発展		
2. フィールド対象国の保健医療の現状を説明できる					
3. フィールド対象国における健康問題と看護の課題を考えることができる					
4. フィールド対象国における実践可能な看護活動を考えることができる					
5. フィールド対象国において効果的な実習ができるよう言語的コミュニケーション手段を習得する					
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	<p>1、 聖マリア学院大学が属する聖マリアグループを中心とした関連機関、施設における実習</p> <p>2、 専攻学生の研究テーマに合致した国、地域における実習</p> <p>フィールドスタディ予定</p> <p>* 事前学習(7.5時間×2日、15時間)</p> <p>* フィールドでの活動(90時間)</p> <p>① フィールド1を選択した場合;例として、特定非営利活動法人ISAPH(International Support and Partnership for Health)が行う住民参加型地域保健向上活動(ラオスカムアン県母子保健プロジェクト)に参加する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ラオス人民民主共和国の保健医療システム(国、県、郡)について</li> <li>ラオス人民民主共和国保健省の母子保健対策について</li> <li>ラオス人民民主共和国の医療施設見学 国立ピエンチャン病院(首都におけるリファラル施設)、県病院、郡病院、村落における保健医療施設訪問</li> <li>ISAPHの活動地域の視察(カムアン県)</li> </ul> <p>② フィールド2を選択した場合においては、当該国において上記活動、研究テーマにのったフィールドワークを行う。</p> <p>事後学習、まとめ(7.5時間×2日、15時間)</p>	実習	秦野	<p>選択したフィールド対象国に関し、インターネットを活用し、十分な情報収集を行い実習計画書を作成する</p> <p>フィールドスタディ実施後、活動内容を含む報告書を作成、提出する</p>	
成績評価方法・基準	評価方法 レポート70%、実習への取り組み30%(評価者 秦野)				
課題に対するフィードバック	<p>1、実習中に、メールなどを活用し適宜連絡を取り合い、指導やフィードバックを行う。</p> <p>2、実習終了後には全体的な報告と最終レポートに対し、フィードバックを行う。</p>				
教科書	適宜配布する				
参考書・参考文献	特になし				
WiAアー 学習相談 メッセージ その他	<p>秦野環(2号館一階、214研究室)</p> <p>基本的には、事前にメールでアポイントメントをとることを要件とし、いつでも学修に対する支援を行う。</p> <p>「緊急流入が難民定住地の長期滞在女性難民に及ぼした影響 ウガンダ難民定住地での調査報告、その1」の結果の一部を参照しながら授業を行います。</p>				

開設科目名	課題研究	科目コード	MNSA534	開設期	1年後期～2年通年
単位数(履修区分)	2単位(選択)	時間数	60時間	授業区分	演習
責任者	研究科教員	担当者	研究科教員		
授業の概要(授業の目的)					
看護実践の質の向上を目指して各専門領域における研究課題を特定し、適切な研究手法を用いて実践的な研究を行い、課題研究論文を作成する。					
学修の到達目標			ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連		
1. 看護実践の中から課題を見出すことができる。			3. 看護実践の追及 4. 看護の質向上への貢献 8. 専門職業人としての発展		
2. 研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画を作成できる。					
3. 作成した研究計画に沿って課題を探求し課題研究論文を作成できる。					
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	1. テーマの決定 2. 関連文献の検索とクリティーク 3. 研究計画の作成 〔課題の重要性と背景、研究目的、研究の意義、研究方法、データ収集、分析と評価〕 4. 研究の実施 5. 分析とまとめ	演習	各担当 教員	課題研究論文提出期限に向け、必要なプロセスを計画的に実施すること	
成績評価方法・基準	課題研究論文審査				
課題に対するフィードバック					
教科書	特になし				
参考書・参考文献	特になし				
ピアラー 学習相談 メッセージ その他	専任教員連絡先一覧にて確認してください				



開設科目名	特別研究	科目コード	MNSA535	開設期	1年後期～2年通年
単位数(履修区分)	8単位(選択)	時間数	240時間	授業区分	演習
責任者	研究科教員	担当者	研究科教員		
授業の概要(授業の目的)					
専攻領域の講義・演習などによる知識の活用及び文献検討をふまえて、各分野に関する研究課題を科学的に探求し、この過程を通して、修士論文を作成する。専攻領域で学んだ講義・演習などの内容に基づき、研究を通して専攻領域の技術、概念、理論の発展に貢献しうる能力を養う。					
学修の到達目標			ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連		
1. 文献検討からリサーチエスチョンを導きだし、研究計画書を作成することができる。			5.看護理論活用の探求		
2. 研究計画書に基づき、調査を実際に行い、データを収集することができる。			6.看護理論の検証		
3. 研究の目的にそってデータ分析を適切に実施できる。			7.国際性、学際性の探求		
4. 研究の目的にそって結果を考察し、論文を全体にまとめることができる。			8.専門職人としての発展		
授業計画(授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)					
回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
複数回	1. 関連文献の検索  2. テーマの決定  3. 研究計画書の作成 〔問題とその重要性と背景、目標、結果の予測、方法、作業計画、設備〕  4. データ収集  5. 集計 まとめ  6. 研究論文の作成	演習	各担当教員	1. 文献検索を行い、リサーチエスチョンを明確にする  2. 文献検索から導かれた適切なテーマを探求する  3. 研究計画書の準備を行う。  4. データ収集のための準備を行う。  5. 量的分析または質的分析の方法を取得する。  6. 論文完成に必要な資料を整理し、論文作成の準備を行う。	
成績評価方法・基準	特別研究論文審査				
課題に対するフィードバック	随時フィードバックを行う				
教科書	特になし				
参考書・参考文献	特になし				
オフィスアワー 学習相談 メッセージ その他	専任教員連絡先一覧にて確認してください 論文作成のプロセスについては、本便覧の「修士論文提出手続き」「修士論文審査及び最終試験」の項を参照。				

開設科目名	A P N (Advanced Practice Nursing) 研究 B	科目コード	MNSA610	開設期	2 年前期
単位数 (履修区分)	2 単位 (自由)	時間数	4 5 時間	授業区分	講義・演習
責任者	矢野正子	担当者	矢野正子、日高艶子		

授業の概要 (授業の目的)

APN 研究 B は、その 1 としてアメリカ・イギリスにおけるクリニカルナーススペシャリスト CNS (以下 CNS) について教育、法律による規定、資格、業務、役割、実践、研究、今後の課題などについて学ぶ。

アメリカの CNS 業務には専門分野別カテゴリーがある。CNS の機能は、ヘルスクエアへの影響範囲、3 Spheres of Influence、が 3 つあるとされ、それらは ①患者②看護・看護実践③組織・システム についての改善、効果、発展が期待されており、これらの CNS の実際について学ぶ。また CNS の 7 つのコンピテンシーがあげられており、これらには、熟練した臨床実践の専門家であること、チームのマルチコンピテンシーの推進、患者のケアシステム改善を目指す臨床家・専門職としてのリーダーシップ、などがある。

イギリスでは 1986 年のプロジェクト 2000 により准看護師養成廃止、看護教育の大学化へ進み、以来、数々の背策が講じられている。

APN 研究 B は、その 2 としてタイ看護の歴史、看護教育、APN などの発展の経緯を学び、またアセアン諸国におけるタイ看護の位置づけを理解する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1. アメリカ・イギリスの CNS について、CNS の定義、教育や役割、業務について説明できる。	3 看護実践の追求 7 国際性・学際性の探求 8 専門職業人としての発展
2. アメリカの CNS の 3 Spheres of Influence について説明できる。	
3. アメリカの CNS の 7 つのコンピテンシーについて説明できる。	7 国際性・学際性の探求 8 専門職業人としての発展
4. タイにおける APN を含む看護教育の発展の経緯と現状について説明できる。	
5. 我が国の今後の CNS の開発・向上への視点を考察し説明できる。	

授業計画 (授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等)

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	APN のうち、CNS について学ぶ。 アメリカ・イギリスの専門職団体からの情報、CNS 専門誌などから学び、併せてタイ看護についても知識を得る。これらからわが国の状況に照らし合わせてわが国の CNS について考察する。			○教科書 1. . . 参考書を示す	
1	アメリカ・イギリスの CNS の実践から、CNS とは何か、について	講義	矢野	①、②、⑤	1 時間
2	アメリカの CNS の実践から、CNS 業務の専門分野別カテゴリーについて	講義	矢野	②	2 時間
3	CNS によるヘルスクエアへの 3 つの影響範囲について - その(1)	講義	矢野	②	2 時間
4	CNS によるヘルスクエアへの 3 つの影響範囲について - その(2)	講義	矢野	②	2 時間
5	CNS によるヘルスクエアへの 3 つの影響範囲について - その(3)	講義	矢野	②	2 時間
6	患者のアウトカムや看護ケアの継続的改善を促すための 7 つのコアコンピテンシーについて - その(1)	講義	矢野	③	2 時間
7	患者のアウトカムや看護ケアの継続的改善を促すための 7 つのコアコンピテンシーについて - その(2)	講義	矢野	③	2 時間
8	患者のアウトカムや看護ケアの継続的改善を促すための 7 つのコアコンピテンシーについて - その(3)	演習	矢野	③	2 時間
9	3 つの影響範囲から；CNS の実践・報告例について ①集団を対象とした報告例	演習	矢野	NACNS の関連資料より	2 時間
10	3 つの影響範囲から；CNS の実践・報告例について ②疾患・患者を対象とした報告例	演習	矢野	NACNS の関連資料より	2 時間
11	3 つの影響範囲から；CNS の実践・報告例について ③問題・課題を対象とした報告例	演習	矢野	NACNS の関連資料より	2 時間
12	イギリスにおける APN (CNS を含む) の教育について	演習	矢野	④、NMC の関連資料より	2 時間
13	イギリスにおける APN (CNS を含む) による研究について	演習	矢野	NMC の関連資料より	2 時間
14	イギリスのプロジェクト 2000 と PREP について	演習	矢野	④	2 時間
15	イギリスのプロジェクト 2000 と単位積立制度について	演習	矢野	④	2 時間
16	イギリスの NHS について	講義	矢野	3、6	2 時間
17	タイ看護について；その歴史、看護教育、看護業務、APN の教育	講義	矢野	⑤、1、5	2 時間
18	タイ看護について；看護助産法	演習	矢野	7	2 時間
19	タイ看護調査報告書から - その(1)	演習	矢野	4、5	2 時間
20	タイ看護調査報告書から；その(2)	演習	矢野	4、5	2 時間
21	アセアン諸国におけるタイの看護の役割、タイの看護研究	演習	矢野	5	2 時間
22	我が国の CNS について - 導入の経緯と現状、	講義	矢野	⑥、8	2 時間
23	我が国の CNS について - 今後の課題、まとめ	講義	矢野	⑥、9	2 時間

成績評価方法・基準	参加態度 50%、課題 レポート 50%
課題に対するフィードバック	授業内で適時にミニ課題を選び討議し、今後の学びのための示唆を得られるようにする。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Mary Fran Tracy, Eileen O'Grady (2018) : Harmic and Hanson's Advanced Practice Nursing, An Integrated Approach, 6<sup>th</sup> ed. Saunders (必要資料抜粋)</li> <li>② National Association of Clinical Nurse Specialist (2004) : Statement on Clinical Nurse Specialist Practice and Education, 2<sup>nd</sup> ed. Harrisburg, PA (必要資料抜粋)</li> <li>③ Sparacina, P.S.A. (2005) : The Clinical nurse specialist. (必要資料抜粋)</li> <li>④ 小山真理子編 (2011) : 看護教育の原理と歴史、医学書院</li> <li>⑤ 矢野正子 (2019) : わが国の看護制度の過去・現在・未来 - 米・英・タイとの比較を通して -、第 33 回日本看護歴史学会誌</li> <li>⑥ 井部俊子 (著) 村上靖彦 (編) (2019) : 現象学で読みとく専門看護師のコンピテンシー、医学書院 (必要資料抜粋)</li> </ul>
参考書・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ハーディング優子、矢野正子 (2018) : タイ看護・助産教育の歴史と王朝との関係 (タイ看護教育史その 1) 第 32 回日本看護歴史学会学術集会講演集 PP.50-51</li> <li>2. 中村美鈴 監訳 (2021) : 高度実践看護—総合的アプローチ、第 2 版、へるす出版</li> <li>3. 金子雅彦 (2012) : 医療制度の社会学—日本とイギリスにおける医療提供システム、書院クラレ</li> <li>4. Yuko Tsujita (2017) : BRC Research Report No. 9, Human Resource Development and Mobility of Skilled Labor in Southeast Asia ; The Cases of Nurses (Part 3 Thailand) JETRO</li> <li>5. 矢野正子、ハーディング優子 (2018) : 教育制度に焦点をあてたタイ看護・助産教育発展の経緯 (タイ看護教育史その 2) 第 32 回日本看護歴史学会学術集会講演集 PP.52-53</li> <li>6. 白瀬由美香 (2020) : イギリスにおける「普遍的な個別ケア」の構築 ; 2019 年 NHS 長期計画にもとづく新たなサービスモデルの検討、同志社政策科学研究、第 21 巻 第 2 号、PP.101-112.</li> <li>7. TNMC の関連情報より</li> <li>8. 田中久美子 (2015) : 日本の専門看護師が役割を獲得するまでの内面的成長プロセス、日本看護研究学会雑誌 Vol.38,No.1、PP.127-137.</li> <li>9. 山田雅子 (2010) : APN としての専門看護師 ; 日本専門看護師協議会の見解と動向、インターナショナルナースレビュー、33 ( 1 )、24-33。</li> </ul>
アドバイザー 学習相談 メッセージ	矢野正子 (非常勤) 質問、相談等には、授業終了後、教室にて受け付けます。